

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
平成 29 年 6 月 14日	
愛 知 県 知 事 殿	東京都品川区東品川 2 丁目 2 番 20 号 日本軽金属株式会社 代表取締役社長 岡本 一郎 提出者 日本軽金属株式会社名古屋工場 住 所 愛知県稲沢市小池1丁目11-1 氏 名 工場長 田島 靖史 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 0587 -21-1111
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 12 条第 9 項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事 業 場 の 名 称	日本軽金属株式会社 名古屋工場
事 業 場 の 所 在 地	愛知県稲沢市小池1丁目11-1
計 画 期 間	平成29年4月1日～平成30年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事 業 の 種 類	2 3 (非鉄金属製造業)
② 事 業 の 規 模	事業所の製造品出荷額【前年度】 4, 0 5 5, 1 8 8 万円
③ 従 業 員 数	6 0 6 人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙 1

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項		
(管理体制図) ISO14001環境マネジメントシステム組織の中で管理しているので、その組織図を添付資料で示す。 別紙2		
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		
①現状	【前年度（平成28年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙3-表1
	排出量	
	(これまでに実施した取組み) ・昨年度は生産量増だったが、廃棄物総排出量はほぼ計画通りできた。 ・熱間圧延機のクーラント原単位改善効果もあり、廃油発生量を抑えられた。 ・梱包資材の入替えにより、木くず排出量が例年なく多かった。	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙3-表2
	排出量	
	(今後実施する予定の取組み) ・熱間圧延機のクーラント原単位改善し、廃油の発生量を抑制する。 ・木くず排出低減のために、できるだけ再利用化促進する。 ・蛍光灯・水銀灯など、長寿命(省エネ)タイプのLEDへの交換を進める。 ・廃アルカリの社内中和脱水により、重量削減を継続する。	
産業廃棄物の分別に関する事項		
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組み) 現在45～50種類に分別を実施中であるので、これを維持する。 廃棄方法不具合があった場合、その都度注意喚起し周知した。 写真付き注意文書配布や現場での分別廃棄方法説明を行った。	
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組み) 処分利用業者等の情報を集め再利用の用途を探る。必要であればさらに細分化を進める。廃棄物分別方法の従業員への周知徹底継続。	

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（平成28年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃油	廃酸、廃アルカリ
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	312 t	0.7t
	(これまでに実施した取組) ・熱間圧延機廃クーラントを蒸留脱水式装置で再燃料化し使用している。 ・廃酸、廃アルカリは社内で、pH調整・中和処理に再利用している。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃油	廃酸、廃アルカリ
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	325 t	3 t
	(今後実施する予定の取組) ・熱間圧延機のクーラント原単位向上による排出量減、再燃料化継続。 ・廃酸、廃アルカリの有効再利用を継続する。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（平成28年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	97 t	t
	(これまでに実施した取組) ・社内で発生する汚泥(水酸化アルミ)は、社内で中和・脱水して減量している。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	100 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・発生する水酸化アルミは、中和・脱水処理して減量化しているので、今後も継続維持する。		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項		
①現状	【前年度（平成28年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	無し
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	
	(これまでに実施した取組)	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	無し
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	
	(今後実施する予定の取組) ・特になし	
産業廃棄物の処理の委託に関する事項		
①現状	【前年度（平成28年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙3-表3
	全処理委託量	
	優良認定処理業者への処理委託量	
	再生利用業者への処理委託量	
	認定熱回収業者への処理委託量	
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	
	(これまでに実施した取組) ・優良認定処理業者への優先的な処理委託。 ・再生利用業者への優先的な処理委託。 ・古紙のリサイクル方法改善(機密文書→社内トイレットペーパーへ再生化) リサイクル状況をトイレ室内に掲示(リサイクルの見える化による啓蒙活動)	

②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙3-表4
	全 処 理 委 託 量	
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	
(今後実施する予定の取組) ・発生量の抑制 ・廃棄物の分別とルール周知徹底 ・再生利用業者、優良認定処理業者への優先的な処理委託。		
※事務処理欄		

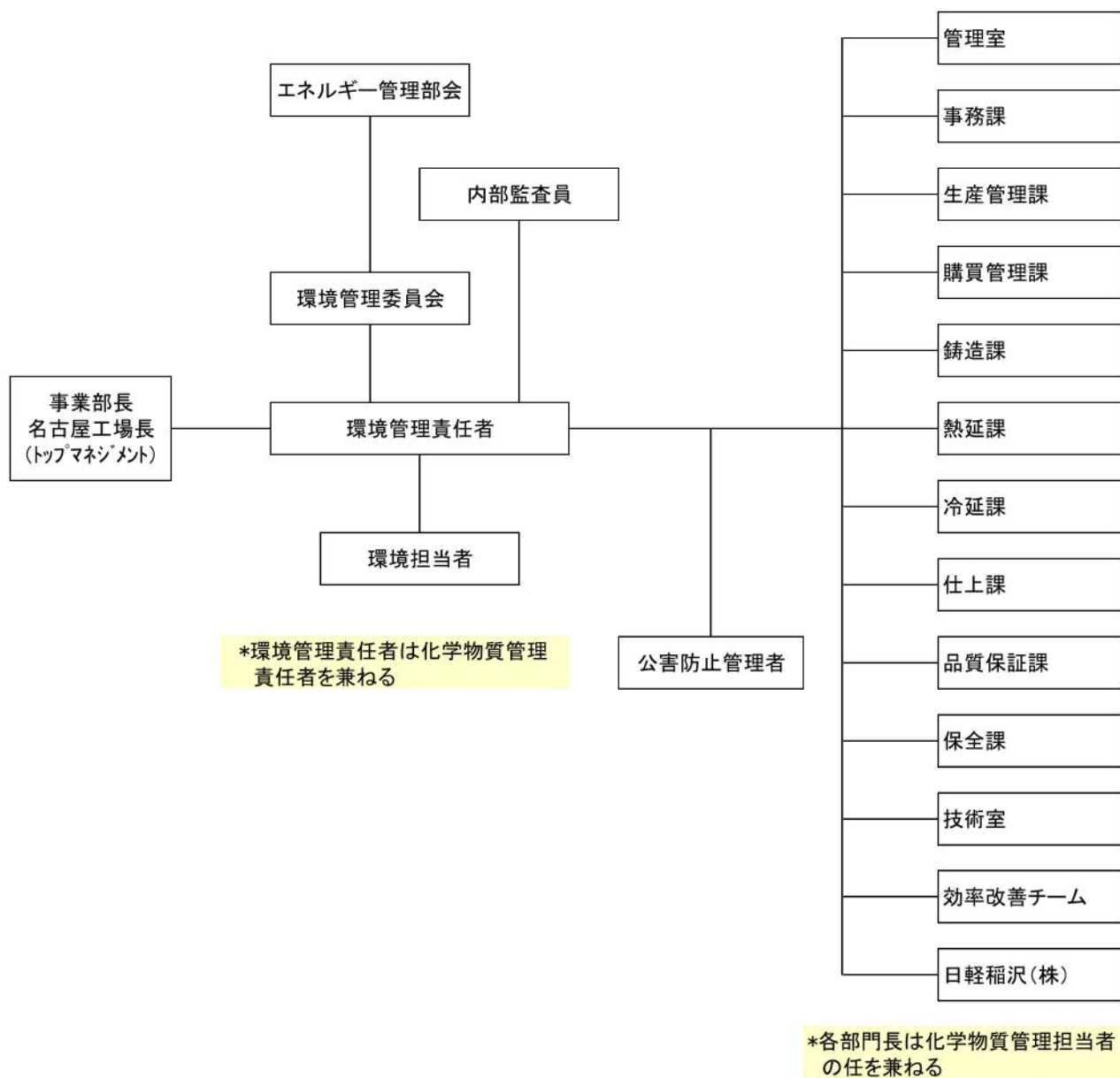
備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙1

種類	工場内				委託	
	発生工程	発生物	場内処理		中間処理	最終処分
廃油	熱間圧延	廃圧延油	→ スカム分離	→ スカム	→ 混錬	→ 燃料
		鑄造燃料	← 真空蒸留	←		
汚泥	洗浄	廃アルカリ	→	中和・脱水	→ 混錬	→ セメント原料
		廃酸	→			
	水処理設備	余剰汚泥	→			
	冷間圧延	ろ過助剤	→	→	→	→ セメント原料
	工場全般	油泥	→	→	→ 油水分離	→ 燃料
		その他汚泥	→	→	→	→ 埋立て
	ロール研磨	研削スラッジ	→	→	→ 圧縮・溶融	→ 鋼材
ばいじん	鑄造	炉前集塵灰	→	→	→	→ 埋立て
		ばいじん	→	→	→ 混錬	→ セメント原料
がれき	鑄造	コンクリート・セラミック屑	→	→	→	→ 埋立て
		レンガ・耐火物	→	→	→ 破碎	→ 路盤材
ガラス・陶磁器屑	工場全般	保温材	→	→	→	→ 埋立て
		清掃屑	→	→	→	→
混合物	工場全般	蛍光灯・水銀灯	→	→	→ 破碎	→ リサイクル
廃プラスチック	梱包	PPバンド	→	→	→ 圧縮	→ 焼成
		ポリシート	→	→	→ 圧縮	→ 燃料
		塩ビシート	→	→	→ 圧縮	→ 焼成
	工場全般	家電品	→	→	→ 焼却	→ 埋立て
					→ 溶融	→ 燃料
					→ 選別	→ リサイクル
廃酸・アルカリ	洗浄	アルカリスラッジ	→	→	→	→ 埋立て
木くず	梱包資材	廃パレット	→	→	→ 切断・破碎	→ 燃料
		ばん木	→	→	→ 破碎	→ ハルフ原料

別紙2 環境マネジメントシステム組織図



別紙3

表1

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

産業廃棄物の種類	廃油	汚泥	ばいじん	ガラス・陶磁器	がれき	混合物	廃酸・廃アル	廃プラスチック類	木くず
排出量	368t	501t	60t	43t	153t	0.7t	35t	122t	225t

表2

②計画

産業廃棄物の種類	廃油	汚泥	ばいじん	ガラス・陶磁器	がれき	混合物	廃酸・廃アルカリ	廃プラスチック類	木くず
排出量	354t	518t	60t	40t	153t	0.7t	35t	115t	200t

表3

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状

[illegible]

表4

②計画

[illegible]